Education magazine（尾花沢市教育委員会通信）

輝け！おばねっ子

第５９号
令和７年３月10日
※毎週月曜日発行予定です

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただくことができます

山本由伸投手「正しく立つ」➡子供たち「正しく生活する」

「ウチの息子は、勉強などがんばらなくとも、仲間はどうであれ、野球がうまくなりさえすればいい」。20年ほど前に耳にしたある保護者の言葉です。当時、野球部の顧問であった私は、そのとき感じた違和感を、その保護者にうまく伝えられませんでした。

昨年、ロサンゼルス・ドジャースがワールド・シリーズを制覇したことは記憶に新しいところです。大谷翔平選手の大活躍に加え、山本由伸投手の要所での活躍も光りました。

山本由伸投手は、オリックス・バファローズに在籍した７年間で70勝、通算防御率1.82、３年連続「沢村賞」（シーズンで最も活躍した先発投手）という錚々（そうそう）たる成績をひっさげ、海を渡りました。

山本投手の特徴に、足を上げずに投げる独特の投球フォームがあります。このフォームは、トレーナーである矢田修氏考案の、体の内部筋肉に働きかける「ＢＣエクササイズ」に取り組んだことがきっかけで生み出されたそうです。「ＢＣエクササイズ」で最初に行うことが「正しく立つこと」です。「正しく立つこと」を矢田氏は次のように解説しています。

> 正しく立てない者は、正しく歩くことはできない
> 正しく歩くことができない者は、正しく走ることはできない
> 正しく走ることができない者は、正しく投げることはできない
> 正しく立つには、正しい呼吸と集中が大切

山本投手は「自分では真っすぐ立てているつもりでいたんですけど、まったくそれはちゃんと立てているとはいえなくて。『これ、真っすぐ立てていないんだ』というところから始まりました」と言っています。「まっすぐ立つ」という簡単で当たり前のように思えることも、実は奥が深く難しいのだということを改めて理解したところです。

冒頭の話に戻りますが、現在ならば、その保護者に違和感をお伝えすることができます。

「正しく立つ」は「ブレない土台をつくり上げる」すなわち「正しく生活する」となります。子供たちにとって「正しく生活する」とは「規則正しい生活をする」「やるべきことを誠実にやりとげる」「仲間を思いやり他人に迷惑をかけない」などが考えられます。

私は、野球という競技が、チームの勝利のために自らを犠牲にして仲間を進塁させる「送りバント」という攻撃手段をもつ特殊なスポーツと捉えています。

そう考えれば、勉強をがんばることができずに、もしくは仲間を思いやることができずに、野球がうまくなることはあり得ません。

一流のプレーヤーでも土台作りに努めます。ましてや、子供たちが自分の土台である「正しく生活する」ことをおろそかにして、何かを極めようとすることなどできない、と思うのです。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長　工　藤　雅　史
ＴＥＬ　２３－３３３０